



医療現場にあふれる紙資料を電子化

済生会西条病院 金子伸吾 様

電子カルテの導入など医療現場のIT化が進んでいるが、これまで紙で作成・保管されてきた資料のすべてが電子化するわけではない。こうしたなか、済生会西条病院（愛媛県）では、さまざまな病院内の業務で日々膨れ上がる書類を『ScanSnap』でPDF化し、スムーズな情報管理に役立てている。そこで、自身も熱心なユーザである金子伸吾先生に話を伺った。



済生会西条病院 循環器科医長
金子伸吾 様

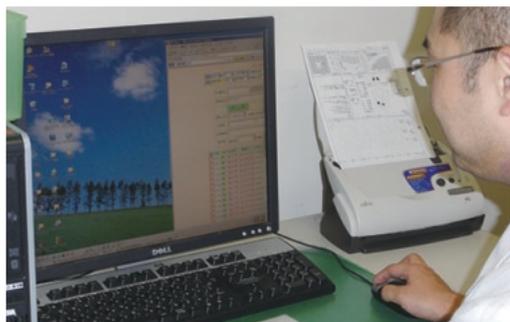
【略歴】2002年 愛媛大学医学部
医学科卒、2004年 都立墨東病院
循環器科、2011年より現職

【資格・認定医】日本内科学会認
定医、日本循環器学会認定専門医、
日本心血管インターベンション学
会専門医

円滑な情報管理が仕事の効率を飛躍的に上げる

年間1万枚以上スキャン

最新の医療設備による質の高い安全な医療と心のこもったサービスを提供する済生会西条病院。そこで『ScanSnap』は外来センターに設置されて4年、休む間もなく年間1万枚以上の書類を電子カルテに取り込む仕事を続けている。IT化が進んでいるとはいえ、毎日、病院が扱う紙ベースの書類はまだ多い。場所を取り、管理の労力も並大抵ではないこうした書類をデータ化して保存することで、業務の効率化や情報共有に役立つのだ。金子先生によれば、その用途はエコー所見や診療情報提供書、心電図、血液データなど多岐にわたる。



外来センターで大活躍の
『ScanSnap』

「それでも全く故障する心配がありません。まさに特筆すべき耐久性ですね」と感嘆する。

また、一刻一秒を争う病状の場合、診療を依頼する高次医療機関へデータを迅速に届けることが重要になる。その際、一旦出力した電子カルテの個人名等を油性ペンで塗りつぶし、『ScanSnap』でPDF化してからメール送信すれば、個人情報を守りつつ緊急事態への対応を図れると指摘。これは遠隔医療にも役立つ、病院のホスピタリティにも寄与するものと思われる。

初めて使えるスキャナに出会う

そんな金子先生が『ScanSnap』を私的な書類の情報管理に活用するようになって3年。きっかけはやはり、溜まる一方の紙書類の整理にあった。「自分で書き留めたノートや手元に残しておきたい資料などを含めたら、とても紙では管理しきれない。そこで、PDFで保存できたら便利だなと考えました」

実際に使ってみると、自動傾き補正や検索可能なPDF変換などの機能性に感心。しかも、大量の書類をスキャンしたとき、以前使っていた他社のドキュメントスキャナでは途中で重送（複数枚の紙が同時に給紙されるエラー）になってがっかりすることが多かったが、『ScanSnap S1500』は重送エラーも少なく、また超音波センサーがあるため重送エラーが発生しても、1からスキャンし直す必要もない。「日々の業務に追われる医療現場にとっては給紙速度よりも正確さが要求される」と、初めて使えるスキャナに出会った印象を持ったという。

さらに、使い勝手を大きく向上させたのがiPadで閲覧できるようになったこと。「学会の調べものも素早く取り出せ、いつも重たい思いをして書類を持ち歩く必要がなくなりました」



済生会西条病院

重い資料を iPad で軽々持ち運べる

その上で、「これは別物です」と惚れこむのが新モデルの『iX500』。なぜなら画像処理エンジン「GI」プロセッサの搭載により、Wi-Fi 経由でスマートフォン／タブレット、パソコンへイメージデータを直接送れるようになったからだ。同機はそればかりでなく、スキャン速度や給紙性能が向上。一層安定したスキャンができるようになった。

もう一つ、データ容量を気にせずに利用できるクラウドサービスとの連携も外せない。「重くて持ち運びが困難な書類や自分の研究のために作成した資料も全部クラウドへ取り込んでいます。いつでもどこでもクラウドからデータが入手できるようになったことで、資料忘れや探す手間が一切なくなりました」

このような仕事上の効率化に加え、「PDFとiPadのRetinaディスプレイとの親和性が非常によく、目が疲れにくい。拡大すれば小さな文字も読みやすくなる。それもPDFを多用する理由の1つです」と日常使うツールだからこそ、大事にしたい視点を口にした。



『iX500』で読み取り、Wi-Fi で iPad へ転送。



iPhone への直接転送もご覧の通り。

活用範囲を広げる非接触スキャナ

一方、見開きなどの大きな原稿でも、裁断することなく読み取れるのが『SV600』。A3サイズ1枚をたった3秒、ページをめくるだけで次々にスキャンしてくれると評判だ。

他にも立体物や『iX500』に通せないレシートのような小型の検査データなど紙質を問わず利用できるのも、アイデア次第で活用の幅が広がると金子先生。「医療現場の用途では、手書きしたシェーマやマインドマップなどをそのままスキャンしておくと便利だと気づきました。次に同じような症例があったら再利用できるし、上書きもできますから」と重宝していることを伺わせた。



『SV600』なら、自分で書いた資料も開いたままスキャンできる。

『ScanSnap』は頼れるパートナー

紙の書類を簡単に整理できる、どこに何があるかわからないことがなくなる、外出先からクラウド上でデータを手入れできるなど、『ScanSnap』のパフォーマンスは自身の仕事を紙ベースからPDFベースに大きく進化させてくれたと語る金子先生。「ようやくモバイルを仕事に活用できる時代になり、これまで以上に活躍の場が広がるでしょう」と指摘。紙との格闘に終止符を打つ、頼れるパートナーに期待した。

「月刊新医療」2013年1月号より

【著作権について】 著作権の対象となっている新聞、雑誌、書籍等の著作物は、個人的または家庭内、その他これらに準ずる限られた範囲内で使用することを目的とする場合など、著作権法で定められた例外を除き、権利者に無断でスキャンすることは法律で禁じられています。なお業務利用では、著作権者の許諾が必要となることがありますので、著作権法、およびご利用になる企業や団体で定める利用規則等に従って利用して頂くをお願いします。

販売店

【お問い合わせ先】 株式会社PFU イメージング サービス&サポートセンター
TEL: 050-3786-0811
<受付時間> 月～金曜日 10時～12時、13時～17時(当社休業日除く)
E-mail: scanners@ml.ricoh.com

ScanSnap に関する詳細はこちら
<https://www.pfu.ricoh.com/scansnap/>